大切畑ダム災害復旧工事の実施状況について

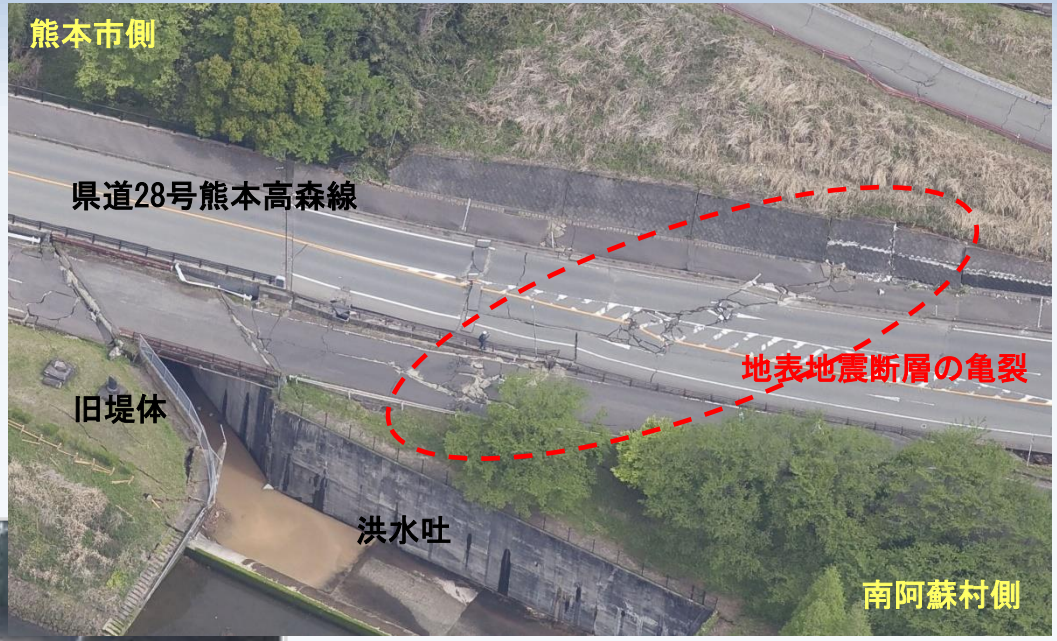
令和7年（2025年)12月

熊本県大切畑ダム復興事務所

大切畑ダム（ため池）の被災状況

熊本地震による大切畑ダムの主な被災状況として、提体のひび割れ・沈下・洪水吐側壁の損傷、下流水路の埋塞、取水施設・操作施設の転倒、仮排水・取水トンネル等の損傷の被害が発生しました。

県道熊本高森線に出現した地表地震断層



大切畑ダムの概要

寛文の頃　（1661～1672年）肥後藩家老米田監物が小規模の堤を築造※

元文元年　（1736年）　大風雨により流失（約120年後の再築まで取り繕いなし）※

安政２～６年　（1855～1859年）惣庄屋矢野甚兵衛によって再築※
かんがい面積 117町
（昭和33年度刊 農林省農地局白川水系農業水利実態調査書）

昭和２８年　（1953年）　６月の集中豪雨で堤体を一部溢流、復旧工事として２ｍ嵩上げ

昭和３５～３９年（1960～1964年）県営老朽溜池補強工事

昭和45～50年度　（1970～1975年）高遊原地区県営かんがい排水事業で堤体を４ｍ嵩上げ
受益面積 717ha（田 71ha、畑 646ha）

平成28年４月　（2016年４月）　平成28年熊本地震により被災
４月16日 本震 M7.3 震度７（西原村）

平成29年１月　（2017年１月）　災害査定

令和元年12月　（2019年12月）　本体工事着工

撮影：(C)国際航業株式会社・株式会社パスコ

※ 出典：肥後藩農業水利史

大切畑ダムの復旧・復興

○大切畑ダムは被災以前、西原村の田71haと畑108ha、益城町の畑135haを灌漑するともに、冬場の水を近隣の深迫ダムに送水し、関節受益として菊陽町の畑403haを灌漑していました。

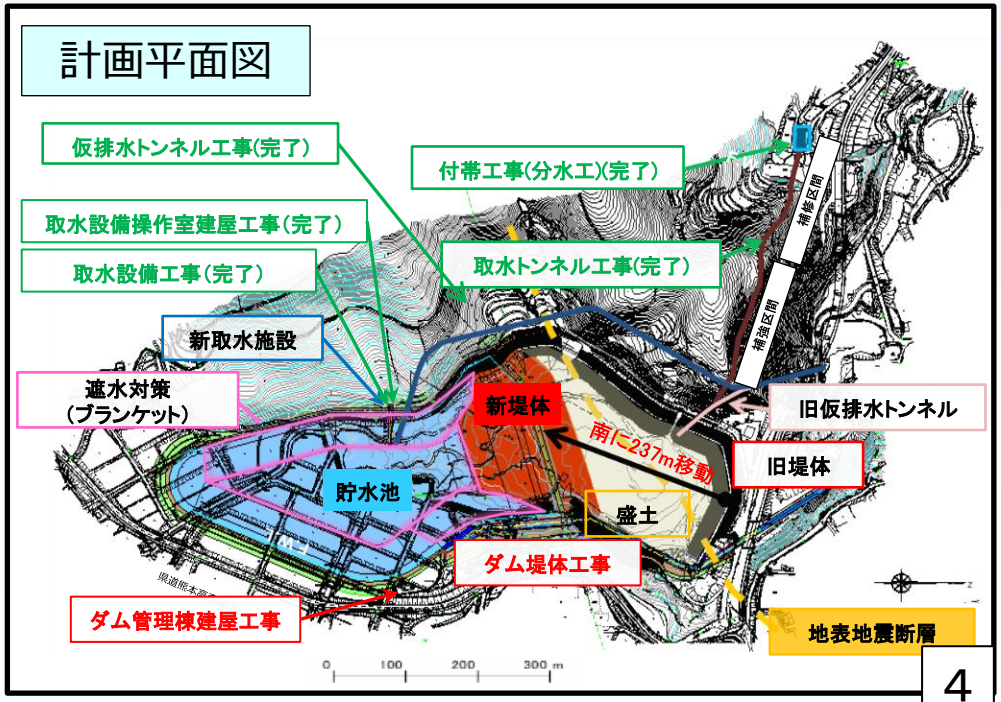
○しかし、熊本地震により提体が損傷するなどの大きな被害が発生しました。さらに、被災後の調査で提体とダム湖内に地表地震断層があることが判明しました。

○そこで、熊本県では復旧に迅速取組むため、「大切畑ダム復興事務所」を開所し、復旧に取組んでいます。

○ダム本体工事は、令和7年10月に堤体の盛立及び洪水吐工完了しました。
現在は、令和８年度の供用開始に向け、池敷法面工等を実施中です。

○ダム本体工事以外では、令和７年6月に取水設備操作室建屋工事が、11月に取水設備工事がが完了し、現在はダム管理棟建屋工事を実施中です。

◆事業概要◆（令和7年12月時点）
・農業用ため池復旧工　１箇所
【総事業費】　約175億円
【受益面積】　605.5ha
【関係市町村】西原村、益城町、菊陽町



大切畑（おおきりはた）ダム災害復旧事業の概要

大切畑ダム全景

遮水材仮置き場

仮排水トンネル新設（完了）

ダム堤体

取水設備・操作室（完了）

旧取水トンネル復旧（完了）